

令和元年度 県立芦屋高等学校 学校評価（目標と評価方法及び評価結果）

1 学校経営のテーマ

「グローバル社会を生き抜く魅力ある芦高、芦高生の創造 ～生徒・保護者の夢を叶える進路実現を～」

○めざす「芦高」像

教育綱領「自治」「自由」「創造」の具現化と新たな学校文化の創造

- ・高貴な人格と確かな学力を育む「学び」を徹底する学校
- ・地域の伝統校として期待され信頼される学校
- ・不易と流行、温故知新の気概が息づく学校

○めざす「芦高生像」

論理的思考力があり、自治を重んじるとともに自由で柔軟な発想ができる生徒

- ・変化の激しい時代において、様々な困難や課題に果敢に挑戦できる生徒
- ・志を高く掲げ、したたかにそしてしなやかに努力できる生徒
- ・「時を守り、場を清め、礼を正す」ことのできる、こころ豊かで自立した生徒

2 本年度の重点目標

第3期「ひょうご教育創造プラン」を踏まえ、次の6項目を重点目標とする。

- (1) 「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実
 - ア 自らの意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育成する。
 - イ 勤労や職業に対する考え方を育むとともに、個に応じた支援の充実に努める。
- (2) 外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。
 - ア 特別枠で入学した生徒に、取出授業、日本語学習等の学習支援を行い、進路実現を支援する。
 - イ 姉妹校提携した学校との交流、海外語学研修、留学生の受入れを通して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の伸張を図る。
- (3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実
 - ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努める。
 - イ 多様な選択科目の設置や少人数授業、きめ細かなキャリアガイダンス等を通して、自ら学び、自ら考え、自ら行動する能力を育成する。
 - ウ 問題解決的学習や体験学習を積極的に取り入れ、学習した内容を活用する力の育成に努める。
- (4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上
 - ア 生徒の多様なニーズに対応するため、教育内容や教材の精選、指導方法の工夫に努めるとともに相互に研修する機会を設け、「教育の専門家」としての資質・能力の向上に努める。
 - イ 教職員が互いに努力を認め合い、励まし合うことのできる人間関係づくりに努める。
- (5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進
 - ア 学校の教育方針や教育内容について保護者や地域住民等への理解を図るとともに、学校への要望などにも留意し、地域に信頼される学校づくりを進める。
 - イ 地域住民と連携し、「高校生ふるさと貢献活動事業」の積極的実施を通じて、開かれた学校づくりを推進する。
 - ウ 地域及び関係機関等と連携して、震災後の取組を発展させた防災教育の充実に努める。
- (6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成
 - ア 生徒一人一人に社会生活のルールや基本的なモラルを守る倫理観の育成を図るとともに、自己責任の自覚、自立心の涵養に努める。
 - イ 命の大切さを基盤とし、学校内外の活動や体験を通して、やさしさや寛容の精神を育み、共に助け合って生きる心の教育を進める。
 - ウ 生徒の心のケアに対応する校内の教育相談体制の整備に努める。

3 総合的な自己評価

- (1) キャリア教育について、今年度「総合的な探究の時間」の在り方を検討し、ガイダンス課を中心に取り組んだことにより、進路決定に役立っていると実感している生徒が昨年度より微増した。キャリアプランニング能力の育成を図るために、今後もキャリアノートの活用を含めた発展的な取組を検討していくとともに、3年間をとおして継続的なキャリア形成につなげていく必要がある。
- (2) 外国人生徒の支援については、モデル校4年目として教職員間での共通理解を図り、支援体制の確立に繋がってきた。進路実現に向けての早期からの対応により、3年次生徒の進路実現を図った。多言語におけるカウンセリングの対応や、他校、関係機関との更なる連携が必要とされる。国際交流については、姉妹校との交流や海外語学研修、講演会等の取組を通して異文化交流を促進できた。
- (3) 学力向上については、3年次の補習体制の充実し、1，2年次での学習環境の確立に取り組むことにより、勉強が大切だと実感している生徒の割合が増えた。新学習指導要領への移行、大学入学共通テストへの対応に向けて、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を図るため、「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善など、教職員のさらなる資質向上が求められる。また、読書離れの実態を改善していくために、今年度の「芦高タイム」などでの図書館活用を充実・発展させながら、図書館の学習センターとしての機能充実と活用を検討していく必要がある。
- (4) 地域との連携については、「高校生ふるさと貢献・活性化事業」などを活用した様々な活動や、地域を巻き込んだ積極的な防災教育の取組により、地域の高等学校として“芦高”への期待が高まり、その様子は新聞等のメディアにより発信をすることができた。しかし、「地域活動やボランティア活動に参加したことがある。」と答えた生徒の割合は昨年度より減っており、対応が求められる。
- (5) 心の教育については、「教育相談体制」の認識が、保護者、生徒ともに昨年度より若干低くなっている。教職員の生徒理解及び学校教育全体をとおした教育相談体制の充実と周知が求められる。

4 学校関係者評価総括

学力向上や進路実績の取組について様々な質問と意見を頂戴した。新学習指導要領に基づく新教育課程の実施や大学入学共通テストに向けた取組を、教務課、進路課、ガイダンス課が中心となり、学校全体で組織的にどのように進めていくのか、AUSプロジェクトチームを有効に活用し、今年度の取組を発展させながら、次年度に向けた新たな取組を検討していく。また、県事業等を活用した様々な体験活動について、子どもたちに様々な活躍の場があり、学校の活性化につながっており、その成果をマスコミをうまく使って学校のPRに役立てているとの意見を頂戴した。次年度は、一人でも多くの生徒が体験活動に参加できるような仕組みを検討していく。外国人生徒にかかる特別枠選抜で入学した生徒の学習支援、進路実現に向けた取組について様々な質問と意見を頂戴した。本校の特色である国際理解教育のさらなる発展を図る。地域と協働した防災・減災教育について、地域代表の方から評価をいただいた。今後も、地域の防災拠点として、地域、行政、大学と連携した取組をさらに継続・発展させていく。

5 次年度に向けた重点的な改善点

高大接続改革、新学習指導要領実施に向けた教育課程の見直し、単位制の特色を生かしながら、生徒の主体的な考察・活動を促す授業づくりをさらに進めていくとともに、地域社会に貢献する活動や防災・減災教育への取組みなど、自治会が主体となって、地域を巻き込んだ芦屋高校の魅力が発信できる体験活動を充実させ、その成果をしっかりと広報していくことが重要である。

6 重点目標別自己評価結果

★印は今年度新規項目

評価の[]内は昨年度評価

| 重点目標 | 実践項目 | 評価方法 | 評価 | 達成状況と改善の方策 |
|---|---|--|----------|---|
| (1)「生きる力」を育み、一人一人の自己実現を目指したキャリア教育の充実 | ①進路別説明会・AUSS キャンパスを活用して、生徒の進路意識の向上に努める。【進路】 | ①進路別説明会、AUSS キャンパス・インターンシップの実践内容及び満足度に関するアンケートにより評価する。【進路】 | B [B] | ①11月実施1年次対象のAUSS キャンパス・インターンシップでは生徒の受講態度も非常に良好であり、アンケート結果からも学問別分野に対する興味関心の高まりを感じた。次年度からガイダンス課に引き継がれることとなるが、今後も必要な取り組みだと考える。【進路】 |
| | ②高大接続に対応した進路の取り組みを、各教科・年次と連携して準備する。【進路】 | ②年度末に総括を行い、年次からの意見をまとめて評価する。【進路】 | B [B] | ②職員研修や進路課拡大会議を例年よりも多く実施したが、高大接続改革の変更に振り回された1年であった。連携という意味では前向きに取り組むことができた。【進路】 |
| | ★③「総合的な探究の時間」を通してキャリア教育や探究的活動に取り組む。 | ★③生徒のレポート等を参考に、年度末に総括を行う。【ガイダンス】 | B | ③各自の進路に応じて学問探究や出版物や新聞記事を素材にした、プレゼンテーションやポスターセッションに意欲的に取り組んだ。【ガイダンス】 |
| | ④各年次・教務課・進路課と連携し、生徒一人一人の個性と進路希望に応じた履修計画の作成を指導する。【ガイダンス】 | ④ガイダンスブックの活用状況や履修科目登録状況から判断する。【ガイダンス】 | B [B] | ④「ガイダンスブック」「シラバス」は生徒の68%、保護者の61%が活用した評価している。両冊子を活用する機会を増やし、適切な履修科目登録を行わせたい。【ガイダンス】 |
| | ⑤社会人や大学生の話を聴き、高校生活の在り方や将来の生き方を考えさせる。【ガイダンス】 | ⑤「仕事ナビ」「進路ナビ」などの行事の実施後の生徒の感想内容等から判断する。【ガイダンス】 | B [B] | ⑤「仕事ナビ」「進路ナビ」等は生徒の60%、保護者の53%が進路に役立ったと評価している。できるだけ生徒が関心を抱きそうな分野の講座を開講したい。【ガイダンス】 |
| | ⑥自らの人生設計に沿った希望進路をこれから決定し、第1志望の進路を実現できる学力を身につけさせる。【3年】 | ⑥希望進路の決定に関しては面談で、進路実現に関しては模擬試験、センター試験、最終の進路結果について例年と比較し評価する。【3年】 | B [] | ⑥人生設計に沿った希望進路を深く考えることは概ねできたが自身の学力と進路実現に必要な学力の差の認識が不十分な生徒が多くみられた。【3年】 |
| | ★⑦新しい入試制度を見据え、一人一人の生徒が進路実現までの道のりをイメージして、主体的・計画的に活動できる能力を涵養する。【2年】 | ★⑦定期的に面談を行い、個人内評価を確認する。またポートフォリオの記述から評価する。【2年】 | B | ⑦新入試に関する情報は精査し、生徒へ伝え準備を進めることができた。ただしポートフォリオの中身の充実にはまだ至っていない。【2年】 |
| | ⑧新しい入試制度に向け、思考力・表現力を身につけるために授業の工夫、アクティブラーニングの積極的導入を行っていく。【1年】 | ⑧定期的に面談や進路LHRを行い、個人の進路実現に向けての意識づけ、到達度を確認する。【1年】 | B [] | ⑧IC機器の利用をして視覚的に学習する授業、アクティブラーニングの積極的導入を試み、学習意欲が高まってきた。しかし、生徒自身の進路に対する取組みに差が見られるため、自分の進路に実感が湧かない生徒に対して具体的な方法で関わっていく必要がある。【1年】 |
| (2)外国人生徒の特別入学制度をもとに、多様な文化背景をもつ生徒間での交流を促進する。 | ①特別枠で入学した生徒に取出授業、日本語学習等の学習支援を行い、進路実現を支援する【国際教育】 | ①当該生徒や保護者からの聞き取り内容や各教科の試験の到達度を分析し、評価の基準とする。【国際教育】 | B [B] | ①校内においては、外国人生徒についての情報共有に努め連携を取りながら支援体制を整えることができたが、学習の評価のあり方や多様な生徒に応じた支援の仕方など、他校と連携を取りながら工夫や改善を図りたい。【国際教育】 |
| | ②姉妹校との交流、海外語学研修やその他の学校行事を通して、異文化交流を促進する。【国際教育】 | ②本校や台湾での交流の様子や海外語学研修報告書やアンケートを通して評価する【国際教育】 | A [A] | ②姉妹校との交流や海外語学研修、広東省生徒の受け入れを通して、異文化交流を促進することができた。またアンケートや報告書から生徒の満足度も高かったように思われる。今後、より多くの生徒に異文化体験を広めていく工夫が必要である。【国際教育】 |

| | | | | |
|--|---|---|--|--|
| <p>(3) 基礎・基本の確実な定着と活用する力を育成し、確かな学力の育成及び個性や創造性を伸ばす教育の充実</p> | <p>★①新学習指導要領に対応した教育課程の編成について、準備を進める。【教務】</p> <p>★②研究授業による授業力の向上【教務】</p> <p>★③模試・学力テストの分析を共有し、進路指導に役立つ情報を提供する。【進路】</p> <p>④進路実現に向けた自学自習の習慣を、補習などにより身につけさせ、主体的に学習する意欲を高める。【2年】</p> <p>⑤自らの長所を伸ばし活かしていく前段階として、授業や小テストなどの地道かつ基礎的な取り組みや、清掃活動や行事における役割など、全ての取り組みに全力を尽くすことができる集団を目指す。【1年】</p> <p>⑥学習センターとしての図書館活動推進の指針造りを進める。【図書】</p> <p>⑦読書センターとしての充実をはかる</p> <p>a) 配架・排架の日常的な点検 b) リクエストの継続 c) 教科・特別活動、「教育ビジョン」とリンクした図書の充実 d) 創意・工夫を凝らした図書出版委員会活動</p> <p>⑧「学校図書館利用に関する基本計画」の策定【図書】</p> <p>⑨芦高80年史編纂に向けての史・資料収集・データベース化【図書】</p> | <p>★①教職員の共通認識の醸成ができていないか、教員アンケート等により評価する。【教務】</p> <p>★②研究授業および事後検討会の実施回数により評価する。【教務】</p> <p>★③進路実績、センター試験、模擬試験の結果について例年と比較し、評価する。【進路】</p> <p>④模擬試験や定期考査の成績を分析し、生徒の取り組み状況については生活実態調査の分析により評価する。【2年】</p> <p>⑤日々の生徒から目をそらさず、声かけを続け変化を確認する。【1年】</p> <p>⑥一昨年度に完成した指針をもとに検討を加える。【図書】</p> <p>⑦充実が図れているかどうか次の観点で評価する。</p> <p>a) 廃棄基準の作成および実施／購入リストを作成しているか。 b) 生徒・教職員の希望をとり、計画的に実施しているか。 c) 教科・特別活動と連携をとり、有効な活用ができていないか。 d) 図書出版委員会が適正に機能しているか。【図書】</p> <p>⑧「学校図書館利用に関する基本計画」の策定作成ができていないか。【図書】</p> <p>⑨有効な史・資料収集を行い、それをデータベース化しているか。【図書】</p> | <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>[]</p> <p>B</p> <p>[]</p> <p>B</p> <p>[B]</p> <p>C</p> <p>[B]</p> <p>C</p> <p>[C]</p> <p>B</p> <p>[C]</p> | <p>①新教育課程説明会をもとに、各教科毎に研修会を実施し周知を図った。各教員の新教育課程に対する意識が高まりつつある。【教務】</p> <p>②研究授業の実施形態を改めていくことを検討している。新年度からの実施に向けて準備をしている。【教務】</p> <p>③今年度より、模試・学力テストの分析を校外の専門家に依頼し、校内研修を実施した。正確な分析と報告ができたが、改善体制の確立には至っていない。センター試験では、成績上位者、理系科目の得点がともに伸びず、例年より高得点獲得層が減少した。取り組みに対する分析・反省・改善が必要である。【進路】</p> <p>④生徒一人一人との対話を重視し、それぞれの個性や取り組みを大切にすることで、徐々に落ち着いた学習環境が整い始め、取り組みが格段に良くなってきた。【2年】</p> <p>⑤年次全体での声かけにより、何事にも一生懸命に取り組める生徒が多くなり、学習に取り組む姿勢もよくなってきた。今後、忘れ物等の自己管理能力や時間の使い方に課題のある生徒への指導が必要になる。【1年】</p> <p>⑥芦高タイムなどでの利用が増えた。年度当初に図書ガイドダンスなどを設定して利用を増やしたい。【図書】</p> <p>⑦a) 引き続き書架の大幅な整理を行う必要がある。 b) 今年度も『Tarzan』をリクエスト本として購入。他文化理解・外国人生徒支援を意識して優先的に購入。読書感想文課題図書などは複本購入して、利用者が増えた。 c) 図書館を利用した教科学習は一部の教科にとどまっている。教科学習での利用の在り方を検討したい。 d) 図書出版委員会により貸し出し・返却等の処理はスムーズに行えたが、図書館報の出版にはいたっていない。【図書】</p> <p>⑧「主体的・対話的で深い学び」のために、学校図書館の活用をどう位置づけるのか、読書に親しむ習慣づけをいかに行えばよいのか、本に向かう時間をどのようにつけさせればよいのか、こうした問題に対しての図書館利用オリエンテーション計画が必要な時期に来ており、「学校図書館利用に関する基本計画」の策定は急務となるができていないのが現状である。【図書】</p> <p>⑨データベース化まではいかないが、80年史作成に向けて、準備を進めている。【図書】</p> |
| <p>(4) 教職員としての資質と実践的指導力を向上し、教職員の協働体制による学校の組織力の向上</p> | <p>①日本学生支援機構給付奨学金の選考に関する手続き、基準、組織を明確にする。【総務】</p> <p>②校務支援システム・成績処理の安定的な運用【教務】</p> <p>③教育情報ネットワークの更新に対する対応【広報情報】</p> | <p>①選考基準や選考過程に対する学校内外からの意見をもって達成評価の基準とする。【総務】</p> <p>②成績処理・出欠処理などについて、正確かつ効率的な運用ができていないか、アンケート等により評価する。【教務】</p> <p>③年度末の時点で、対応状況の確認を行うことで評価する。【広報情報】</p> | <p>A</p> <p>[A]</p> <p>A</p> <p>[B]</p> <p>A</p> <p>[A]</p> | <p>①選考過程に大幅な変更のある一年であったが、年次と連携して内容の周知に努め、保護者からの質問にも丁寧に対応し、手続きを円滑に進めることができた。【総務】</p> <p>②校務支援システムも3年目になり、以前よりスムーズな運用ができるようになってきた。【教務】</p> <p>③前年に引き続き大規模な更新であったが、無事に対応することができた。Windows7のサポート終了に伴う機器の入れ替え等も今後計画されており引き続き対応が必要である。【広報情報】</p> |

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>(5) 地域に信頼され、地域の期待に応える開かれた学校づくりの推進</p> | <p>①学校ホームページの充実 【広報情報】</p> <p>②学校広報誌（「芦高タイムズ」）の充実 【広報情報】</p> <p>③中学生および保護者、中学校教員に対して、「オープンハイスクール」、「学校説明会」などの行事を通じて単位制の特色を生かした学校の様子広報活動を行う。 【広報情報】</p> <p>④防災訓練を通じて、生徒一人一人の防災意識、自主性、判断能力の育成をはかる。 【総務】</p> | <p>①・②ともに、校内および校外（オープンハイスクール等）アンケートにより評価する。 【広報情報】</p> <p>③「オープンハイスクール」「学校説明会」の参加者数、アンケートにより評価する。</p> <p>④防災訓練時の生徒の行動、生徒の自治的活動状況を分析し評価の基準とする。 【総務】</p> | <p>B [B]</p> <p>①校内外アンケート（オープンハイスクール・学校説明会・学校評価）より、学校HPの閲覧の割合は昨年度並みとなっている。しかし「学校生活等に役立っている」と回答した生徒の割合は38.1%とあまり高くなく、校内向けに提供する情報の充実が課題である。 【広報情報】</p> <p>B [B]</p> <p>②50%～60%程度の生徒・保護者が見ていると回答し、中学生でも約半数が見たことがあると回答していることから広報上の役割を果たしている。今年度は発行回数を年4回に減らしたが、オープンハイスクールや学校説明会の時期に合わせて発行することで十分な費用対効果を考えている。 【広報情報】</p> <p>B [B]</p> <p>③オープンハイスクール、学校説明会を合わせると昨年度をやや上回る参加者数となった。しかし両行事ともに施設の収容可能人数の限界に近付いており、さらなる運用方法の工夫が必要となっている。 【広報情報】</p> <p>A [A]</p> <p>④訓練を通して、生徒が防災リーダーの存在を意識し、地域に密着した避難体制の中で主体的に判断し行動することの重要性を認識することができた。 【総務】</p> |
| <p>(6) 自治・自律の精神及び命と人権を尊重する「心の教育」の推進と豊かな人間性の育成</p> | <p>①「自治」に根ざした芦高生の確立 生徒申し合わせ事項の厳守 創造的な自治会行事の支援 【生徒】</p> <p>②カウンセリング指導の充実 【保健】</p> <p>③救急救命法の拡充 【保健】</p> <p>④社会生活のルールと基本的なモラルを遵守する態度を身につけさせる。 【3年】</p> <p>⑤自らの現状を把握し、目的を明確にさせ、進路実現に向けた主体的かつ着実な取り組みをスタートさせる。 【2年】</p> <p>⑥積極的に年次集会を実施し、コミュニケーションの大切さを伝え、代議委員が中心となって、クラスや年次の課題を発見し、自分たちで解決する力を育んでいく。 【1年】</p> | <p>①生徒・教員アンケートにより評価する。 学期ごとの年次章・通学服検査の結果から評価する。 生徒・教員アンケートにより評価する。 【生徒】</p> <p>②カウンセリングの実施回数とコンサルテーションの実施内容の充実度により評価する。 【保健】</p> <p>③実施回数やその内容で評価する。 【保健】</p> <p>④普段の生活態度や生徒・保護者・教員アンケートにより評価する。 【3年】</p> <p>⑤模擬試験や定期考査の成績を分析し、生徒の取り組み状況については生活実態調査により評価する。 【2年】</p> <p>⑥代議委員会を開き、意見交換と相互評価により評価する。 【1年】</p> | <p>B [B]</p> <p>①学年章・通学服の着用に関して、生徒・保護者の評価は大変高い評価ではあるが、教員の評価はそれに比べて低い。今後とも学年章・通学服の適正な着用を促す必要がある。 【生徒】</p> <p>A [B]</p> <p>②カウンセリングの案内が周知され、希望する生徒・保護者が多かったことで、調整が困難なこともあったが、必要な生徒には実施できた。コンサルテーションも学級担任等を交え、保健課として十分にできた。 【保健】</p> <p>B [B]</p> <p>③救命救急法講習会を3回計画し3回とも実施できたが、職員向けについては、年次の行事と重なり、参加できない職員が出た。内容的には充実していた。 【保健】</p> <p>B []</p> <p>④学校でのルールの遵守という面では、自分に都合のいい解釈をする場面も多少見られたが、普段の学校生活において、学校の成員の一人であるという意識を持って行動することができた。 【3年】</p> <p>B []</p> <p>⑤生徒の習熟状況を踏まえ、授業に反映させることはできたが、生徒自身が教師側の仕掛けに関わらず主体的に取り組めるかがこれからの課題である。 【2年】</p> <p>B []</p> <p>⑥月1回の年次集会において、進路・生徒指導についての話を言い、年次全体で情報共有ができた。2年次では、定期的に代議委員会を開き、修学旅行等の行事において生徒が主体的に取り組む自治の力を育んでいく。 【1年】</p> |